

来週の「売り物」記事はこれ



2011年9月30日号 毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

東日本大震災・給食と放射線上・下

くらしナビA面 10月6日（水）・7日（木）

福島原発事故を機に食の安全への関心が高まる中、学校給食の現場では対応についての悩みが大きいです。福島では自治体が独自に食材の放射線を測定したり、九州など遠方の食材を使う動きも出ています。被災地と首都圏それぞれの給食事情を探りました。



認知症の高齢者の訪問診療

くらしナビA面 10月4日（火）



激しい認知症がある高齢者は家族や施設で支えきれず、精神科に入院する例が増えていきます。しかし医師が訪問診療をしてきめ細かいケアをすることで、自宅や施設でも暮らせるケースが出てきました。訪問診療で成果を上げている千葉県の医師を取材しました。

被災地と土葬

くらしナビC面 10月4日（火）

震災で休載していた「こころ」面が復活します。今回は東日本大震災で火葬場が確保できず、その代わりに増えた土葬を巡る問題を取り上げます。土葬された遺体はすべて火葬に移される予定ですが、その実態や遺族の心情はどうかをレポートします。



シリーズインタビュー「時代を駆ける」

「CoCo 壱番屋」創業・宗次徳二さん

10月4日（火）から2週・9回



世界8カ国・地域に1200店超を展開する「カレーハウス CoCo 壱番屋」の創業者、宗次徳二（むねつぐ・とくじ）さん（62）＝写真。妻直美さん（61）との夫婦経営で、1軒の喫茶店から日本最大のカレーチェーンを築きました。

53歳で突如引退して、今は名古屋市中区でクラシック音楽専用の「宗次ホール」を運営し、ココイチ時代と同じ笑顔でお客様を出迎えています。バイオリニストの葉加瀬太郎さんや宮本笑里さんらに名器を無償貸与するなど、音楽界でも広い人脈を持っています。

宗次さんは両親の顔を知らない孤児でした。波瀾万丈な生い立ちや、逆境力に培われた宗次流の経営哲学について語ってもらいます。

コラム「アスリート交差点」

— ロンドン五輪を目指す選手たちの声 —

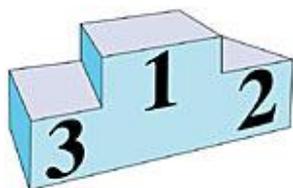
10月7日スタート

来年7月開幕のロンドン五輪を目指す選手たちによるリレー形式のコラム「アスリート交差点」が7日にスタートします。五輪本番まで、原則として毎週金曜日に掲載。第1回は、レスリング女子で世界選手権8回優勝を誇る48キロ級の小原日登美選手（旧姓坂本）＝写真＝が、初の五輪金メダルにかける心境を語ります。以後、競泳背泳ぎの世界選手権金メダリスト、古賀淳也選手▽女子サッカーなでしこジャパンのMF阪口夢穂選手▽オーストラリア代表としての出場を狙う体操の塚原直也選手▽柔道の元五輪王者、鈴木桂治選手らが登場する予定です。



連載企画「インサイド」

五輪ホスト国のメダル量産作戦とは — ロンドン五輪を前に 運動面 10月4日から



近代スポーツのふるさとといわれる英国は、地元で開く来夏のロンドン五輪に向けて、長期的な選手強化を図ってきました。前回の08年北京五輪で、同国史上最多のメダル47個を獲得するなど早くも成果があらわれています。サッカーや競馬などを対象にしたくじの売上金を五輪スポーツ強化費に投入するなど、国を挙げての支援が目立ちます。低迷が懸念される日本にとって参考になる点はあるのでしょうか。そのメダル量産作戦の実態を連載企画でレポートします。4日から5回を予定。

ノーベル賞週間 現れるか日本人受賞者 10月4～8日朝刊

来週はいよいよノーベル賞週を迎えます。4日は医学生理学賞、5日は物理学賞、6日は化学賞、7日は文学賞（予定）、8日は平和賞の受賞者がそれぞれ掲載されます。昨年は、日本人2氏の化学賞受賞で沸きましたが、はたして今年も？ 発表が待ち遠しいです。



夕刊連載企画「ちょっとアルプスまで」 10月3日から



学生時代は山岳部キャプテンだった開高健ノンフィクション賞受賞記者のローマ支局・藤原章生が「ちょっとアルプスまで」登山に出かけた見聞記をロードムービー風に活写。夕刊総合面で10月3日から3回にわたって写真つきで連載します。

孤高の写真家 藤原新也が見た「フクシマ」

夕刊特集ワイド面 10月4日（火）

写真家であり、優れた文明批評家でもある藤原新也さん。「東京漂流」「メント・モリ」など一連の著作で発せられた、時代をえぐるような言葉は、さざ波のように反響を巻き起こしてきました。いま、その藤原さんは繰り返し、東日本大震災の被災地を訪れています。とりわけ、「原発禍」に苦しむ福島では、多くのことを感じたといいます。そのうえで、「頭よりも身体で考えよう」と説きます。その真意とは——。藤原さんが撮影した写真を交えつつ、福島原発事故が私たちの社会に突きつけた課題を考えます。



“知りたいが分かる、がモットーの夕刊「特集ワイド」に、ご期待下さい。